

とくしま産学官連携プラットフォーム

## 中長期計画

2024 年度～2028 年度

2024 年 3 月

## 目次

1. 計画の趣旨 .....	1
2. 計画期間.....	1
3. 構成機関.....	2
4. 徳島県における現状.....	3
5. 今後に向けた課題 .....	12
6. 第2期計画策定にあたっての方向性 .....	12
7. 基本目標とビジョン.....	14
8. 基本目標と事業内容.....	15
9. 事業の実施状況に係る点検・評価・改善について.....	18
10. 実施体制 .....	18

## 1. 計画の趣旨

2019年度のとくしま産学官連携プラットフォーム「中長期計画」策定から5年が経過した。

この間、県内高等教育機関共同による出張講義をはじめ、高校生の進学意識に関する共同調査、地域の自治体や企業、参画機関の学生が共に課題を解決するフィールドワークなど従来の産学官の連携の枠を超えた多様な事業が生み出されてきた。

一方、新型コロナウイルス（COVID-19）による計画への影響や、国際情勢の不安定化に起因する経済状況の変動、DXやAIといったテクノロジーやデジタル化の急激な進展など、計画当初と内外環境が大きく変化したことにより、計画に見直しが必要な部分もみられる。

また、高等教育機関を取り巻く環境は、大学進学時や卒業（就職）時における地域の若者の都心部への転出超過が漸増しており、この状況を打破する方策を新たに検討・実行していく必要がある。

「東京一極集中問題」から、地方が生き残りをかけて戦う「地方創生戦国時代」といわれる状況のなか、このまま成り行きのままの未来を迎えると、人材の流出は加速度的に進み、地域内経済システムがバランスを失うことによる連鎖的な倒産、県民同士の繋がりや郷土愛を支える文化の消失など、県全体で再起困難な状況に繋がることも予想される。

このため、県内全ての高等教育機関、徳島県、県市長会、県町村会及び5つの経済団体に構成される「とくしま産学官連携プラットフォーム」の取組を継続して行い、地域の次代を担う個性豊かな人材育成と県内定着の促進及び知的・人的資源を活用した特色ある研究活動や地域貢献活動の更なる推進など、高等教育の質の向上と活性化を図ることとした。

本計画は、本プラットフォームが新たな中長期計画において目指すべき目標を共有し、その実現に向けて一体となり取り組む方向性を示すため策定するものである。

## 2. 計画期間

計画期間を2024年度から2028年度までの5年間と設定する。

### 3. 構成機関

第2期中長期計画より神山まるとして高等専門学校を構成機関に加える。

#### ① 大学・短期大学・高等専門学校

機関名	所在地
徳島大学	徳島県徳島市新蔵町2丁目24番地
鳴門教育大学	徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地
徳島文理大学	徳島県徳島市寺島本町東1-8
四国大学	徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1
徳島文理大学短期大学部	徳島県徳島市寺島本町東1-8
四国大学短期大学部	徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1
徳島工業短期大学	徳島県板野郡板野町犬伏蓮花谷100番地
阿南工業高等専門学校	徳島県阿南市見能林町青木265
神山まるとして高等専門学校	徳島県名西郡神山町神領西上角175-1

#### ② 地方公共団体等

機関名	所在地
徳島県	徳島県徳島市万代町1丁目1番地
徳島県市長会	徳島県徳島市幸町2丁目5番地 徳島市役所9階
徳島県町村会	徳島県徳島市幸町3丁目55 自治会館4階

#### ③ 地域経済産業界

機関名	所在地
徳島経済同友会	徳島県徳島市東船場町2-21-2
徳島県商工会議所連合会	徳島県徳島市南末広町5番8-8号 徳島経済産業会館（KIZUNA プラザ）1階
徳島県商工会連合会	徳島県徳島市南末広町5番8-8号 徳島経済産業会館（KIZUNA プラザ）2階
徳島県中小企業団体中央会	徳島県徳島市南末広町5番8-8号 徳島経済産業会館（KIZUNA プラザ）3階
徳島県経営者協会	徳島県徳島市南末広町5番8-8号 徳島経済産業会館（KIZUNA プラザ）3階

#### 4. 徳島県における現状

##### (1) 若年人口の流出超過

徳島県の労働生産人口は令和5年10月時点で356,881人であり、第1期中長期計画策定時である令和元年10月の396,513人と比較すると約10%減少している。

また、徳島県の18歳以下人口は、令和5年10月時点で95,187人（徳島県年齢別推計人口調査）であり、令和元年10月106,846人と比較すると5年間で約11%減少している。

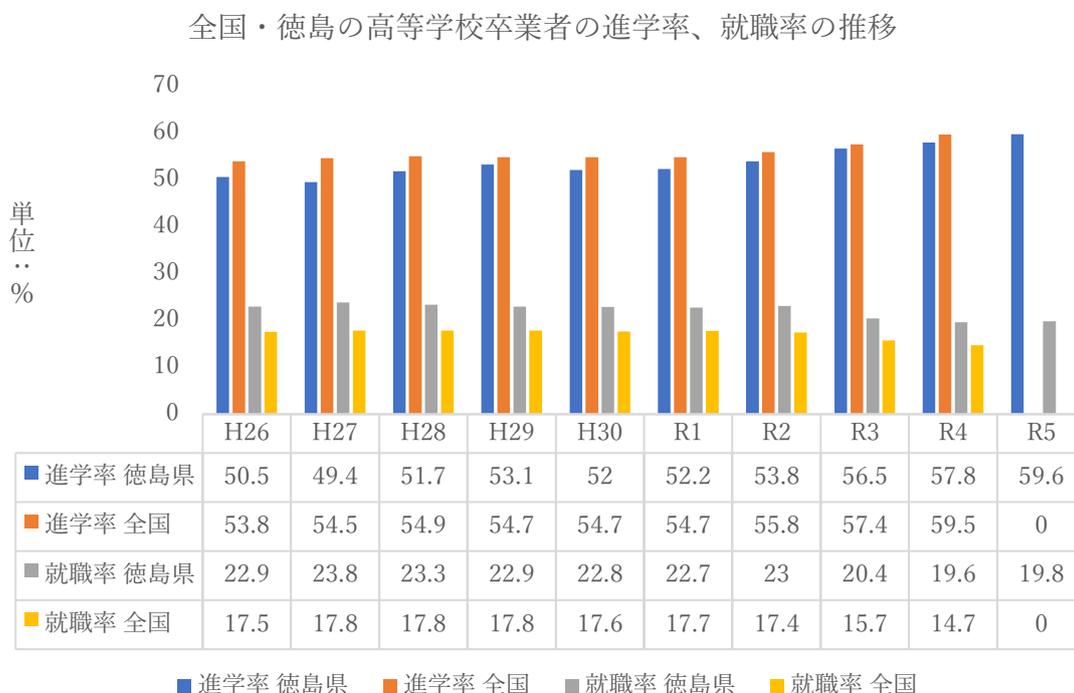
令和4年徳島県人口移動調査年報によると、県内人口の流出については1,040人の転出超過である。このうち20歳～24歳の年代において581人と全体の約56%の転出超過、15歳～19歳で223人と全体の約21%の転出超過と若年層の流出超過が顕著であり、高等教育機関への進学時、卒業時（就職時）に県外へと人口が流出していると考えられる。

##### (2) 県内高校生の進路状況

県内の高等学校の進学率は概ね全国平均並に推移しており、平成30年度からは微増傾向にある。

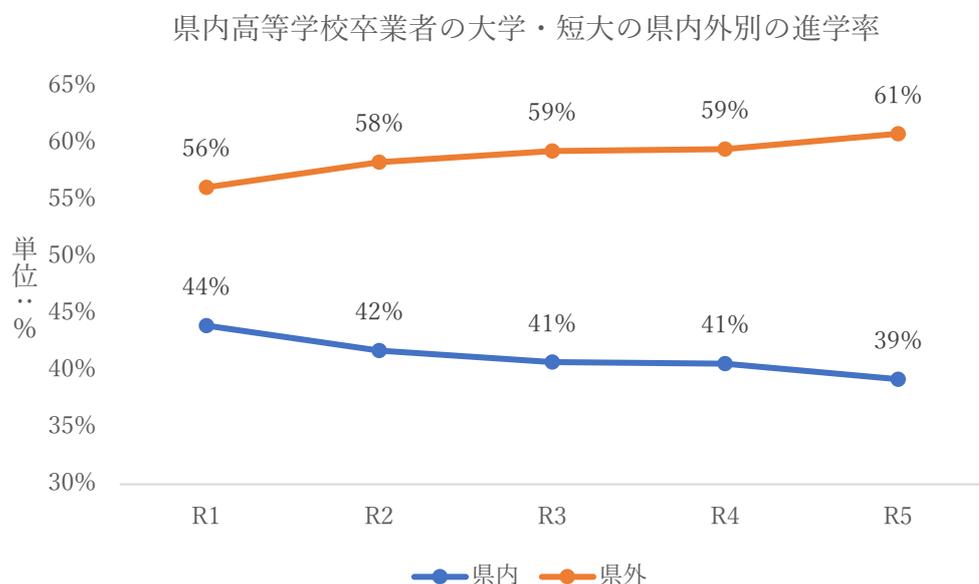
このうち県内、県外別の大学・短期大学への進学状況については、令和元年から令和5年にかけて県内進学率は低下傾向にある一方、県外への進学率は増加傾向にある。

【図表①】



【令和元年度から令和5年度の徳島県教育便覧をもとに作成】

【図表②】



【令和元年度から令和5年度の徳島県教育便覧をもとに作成】

### (3) 徳島県内高等教育機関卒業生の就職状況

令和4年度末にとくしま産学官連携プラットフォームが実施した令和4年度県内高等教育機関の卒業生の就職状況調査では、就職希望者2,237人のうち県内就職者数が963人と県内就職率は43%であった。

また、県外への就職状況について、徳島県人口移動調査年報の令和4年年齢階層別県外間移動状況をみると、高等教育機関卒業者が集中する20～24歳の年齢階層では3,307人の転出のうち、大阪560人、東京都399人、兵庫県313人、香川県244人となっており、県内高等教育機関の学生が就職を機に、近隣の都市部を中心に転出しているものと推察される。

(4) 県内産業を取り巻く現状

高松国税局統計調査によると徳島県の申告法人数からみた県内の企業数は、平成28年の15,493社から令和3年には15,861社と約2%増加している。

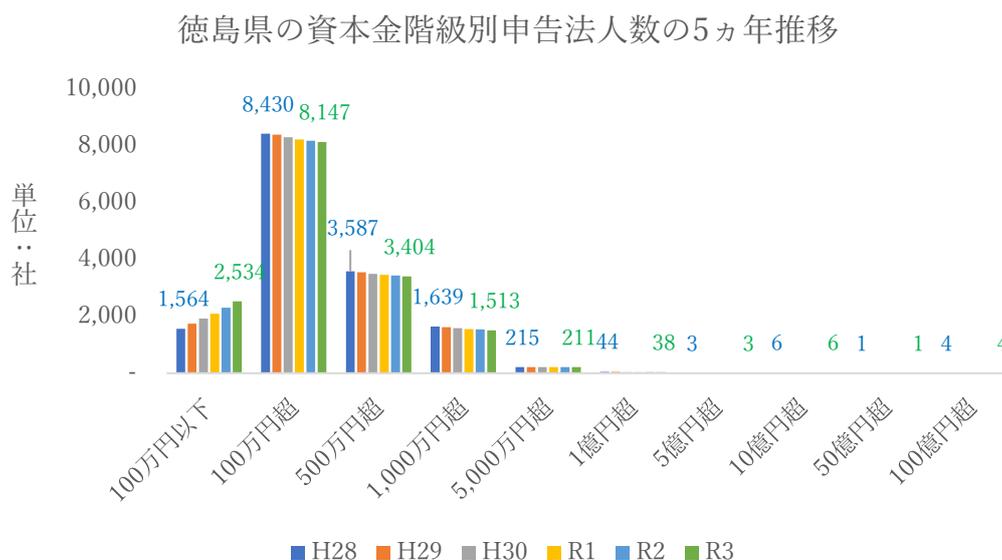
【図表③】



【高松国税局統計調査をもとに作成】

この内訳を資本金別にみていくと、資本金が「100万円以下」の小規模事業者が約62%増加した一方で、「100万円超」から「1億円超～5億円未満」までの小、中規模の企業が総じて減少している。働き方改革やインターネットビジネスの台頭により、個人の働き方の多様化やスモールビジネスが生まれる一方、これまで地域経済を支えてきた雇用力のある規模の企業が大きく減少しているものと推察される。

【図表④】



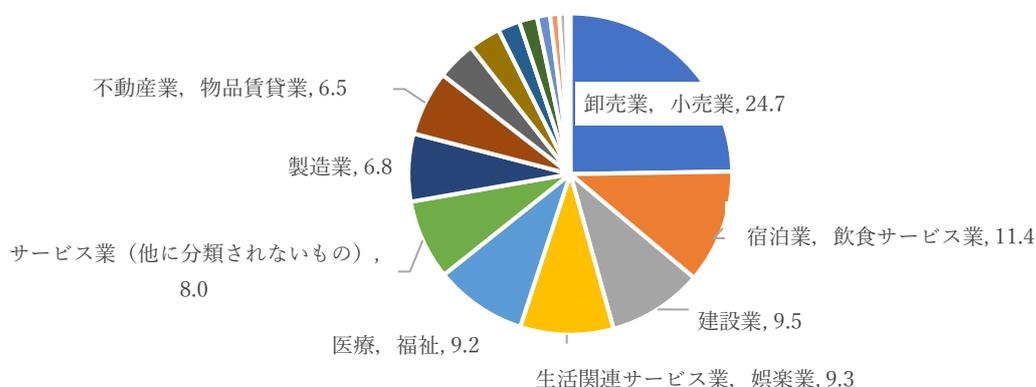
【高松国税局統計調査をもとに作成】

徳島の産業構成を令和3年経済センサス産業大分類別にみると、徳島県の産業は、卸売業・小売業に次いで宿泊業、飲食サービス業、建設業などが多くの割合を占めている。

民営事業所数全体としては、平成28年の35,853件に対し令和3年は34,119件と約5%事業所数が減少している。最も下落幅が大きかった業種を産業中分類別にみていくと飲食店(▲583件)、その他小売り業(▲366)、飲食料点小売業(▲344)、洗濯・理容・美容・浴場業(▲324)と新型コロナウイルスや地域の過疎化の影響、郊外大型店舗やインターネットでの消費増加により、住民のふれあいやコミュニケーションの場として地域を支えてきた業種・業態を中心に減少しているものと推察される。

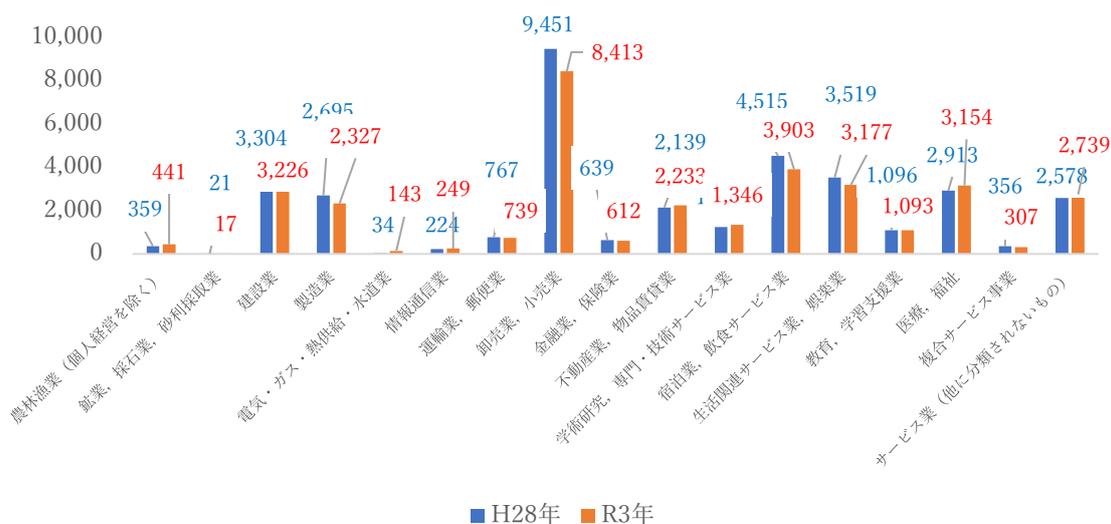
【図表⑤】

徳島県の令和3年度産業大分類別民営事業所数割合



【図表⑥】

徳島県の民営事業所数 (産業中分類別)  
平成28年度、令和3年度の比較



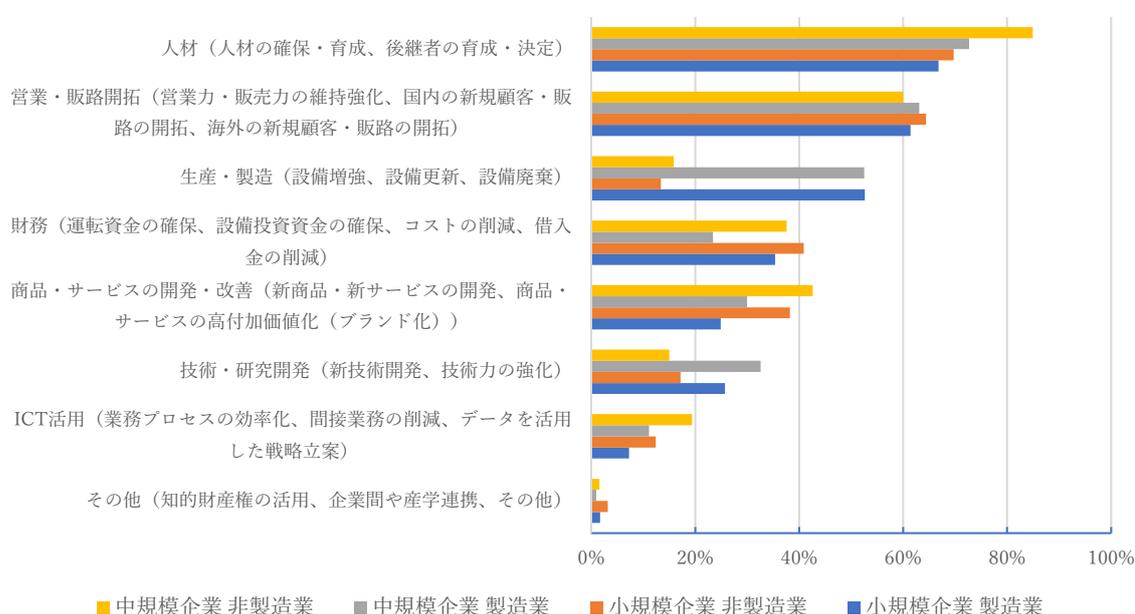
【図表⑤⑥】平成28年、令和3年の経済センサス活動調査をもとに作成

### (5) 産業界の抱えるニーズについて

令和2年の中小企業・小規模企業白書によると、中小企業の経営者が重要と考える経営課題の中で、規模や業種に関わらず6割を超える企業が人材（人材の確保・育成、後継者の育成・決定）に関する項目を課題として挙げている。県内の企業でも、同様に、採用や育成といったテーマについて大学に求める要望は非常に大きいものと考えられる。

また、特に大企業に比べて経営資源が少ない中小規模企業にとっては、新たな事業展開を生み出すための営業・販路開拓や商品・サービスの開発といった項目においても経営課題と認識している企業が多い。【図表⑦】

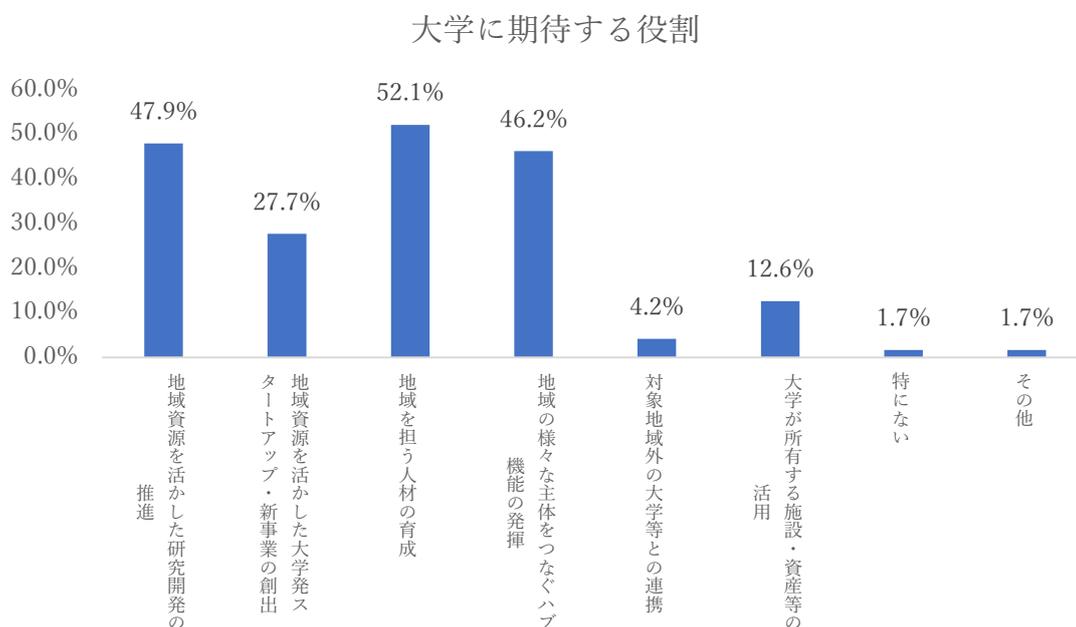
重要と考える経営課題（企業規模別、業種別）



【令和2年中小企業・小規模事業白書をもとに作成】

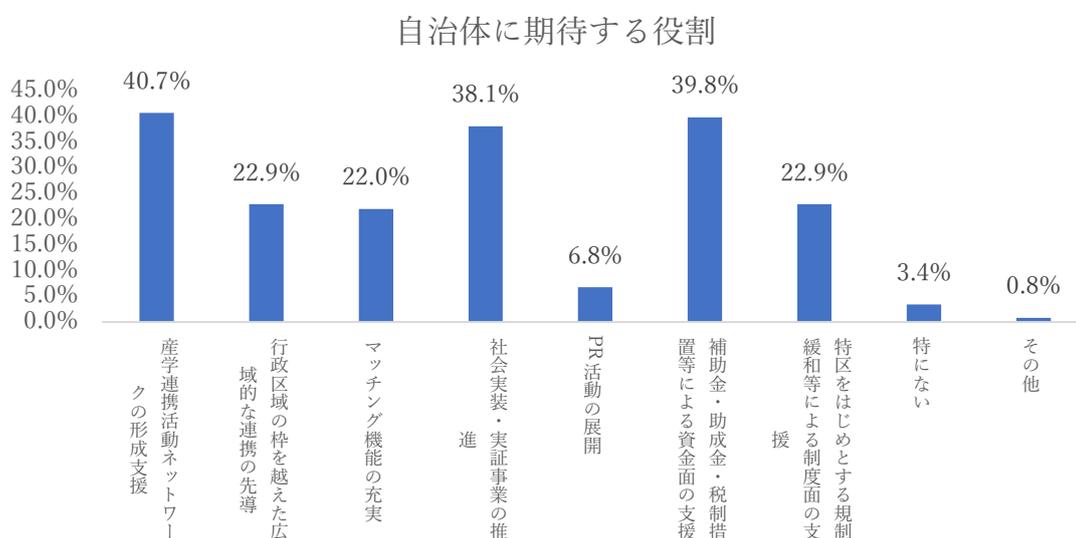
次に地域活性化に資する産学連携において大学や官（特に地方公共団体）に期待する役割について、令和3年に公開された一般社団法人日本経済団体連合会によるアンケート調査を参考にすると、大学に期待する役割としては「地域を担う人材の育成」(52%)、「地域資源を活かした研究開発の推進」(48%)「地域の様々な主体をつなぐハブ機能の発揮」(46%)が挙げられている。

【図表⑧】



官（特に地方公共団体）に期待する役割としては、「産学連携活動ネットワークの形成支援」（41%）、「補助金、助成金・税制措置等による資金面の支援」（40%）、「社会実装・実証事業の推進」（38%）が多い。

【図表⑨】



こうした回答から、産業界は、新たな事業展開を生み出すための様々な主体が集う場を強く求めていることが伺える。

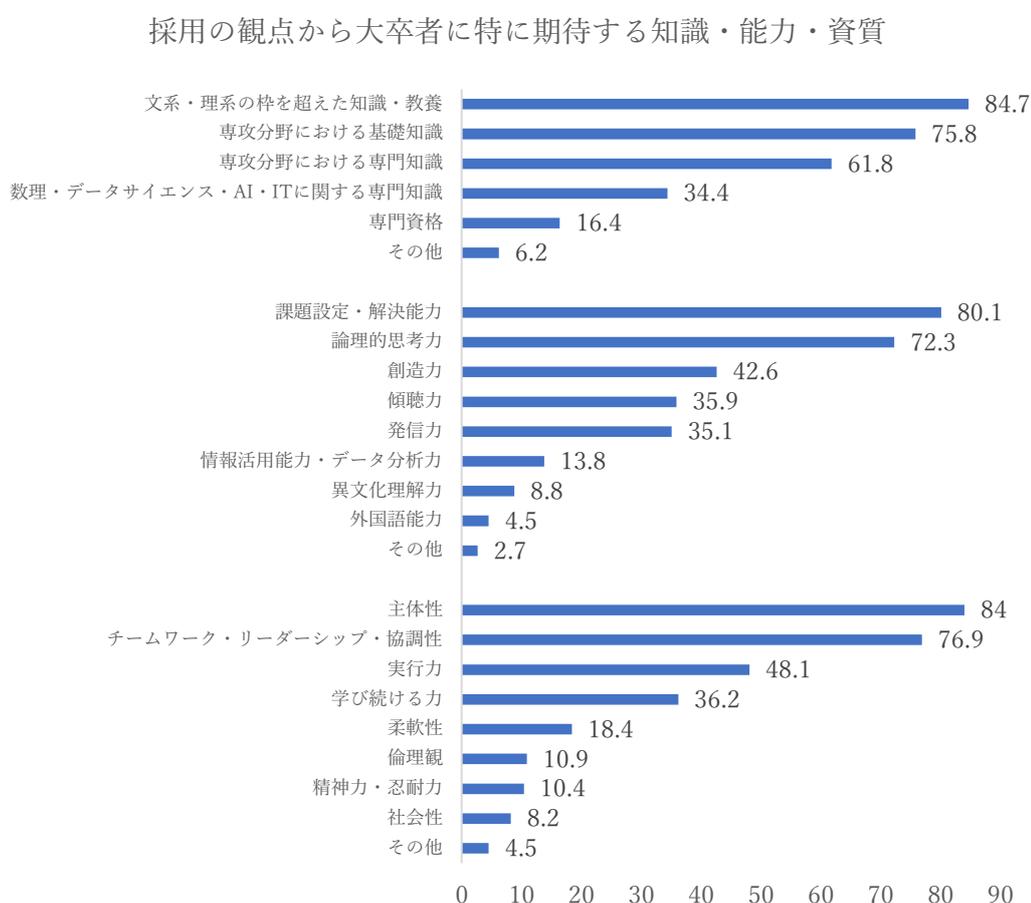
また、学生の教育や育成に関することとして、同団体による「採用の観点から大卒者に特に期待する資質・能力・知識」の調査結果によると、特に期待する知識としては、「文系・理系の枠を超えた知識・教養」が最も多く、能力としては、「課題設定・解決能力」、

「論理的思考力」、「創造力」が上位である。期待する資質について回答企業の約8割が「主体性」、「チームワーク・リーダーシップ・協調性」を挙げている。

これらの回答から変化の激しい不透明で不明瞭な時代に対して、自ら課題を発見し、様々な知識を組み合わせながら、新たな道を切り拓いていけるような人材を求めていることが伺える。

こうした知識・資質・能力を養う教育を地域で展開していくには、個々の高等教育機関の教育プログラム内容の再編に加え、大学の垣根を越えた人材の育成、地域全体をフィールドとしたPBL型の教育機会の拡充が必要になってくるものと考えられる。

【図表⑩】



【図表⑧⑨⑩】日本経済団体連合会「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」

#### (6) 地域の人材が抱えるニーズ

令和4年12月に徳島県政策創造部県立総合大学校本部が県内企業174社の経営者（有効回答件数48件）、とその従業員（有効回答数150件）に実施した調査によると、リカレント教育の重要性について「重要である（29%）」「どちらかといえば重要である（52%）」と答えた企業は合わせて約81%あり、取り組む理由については「企業が成長し

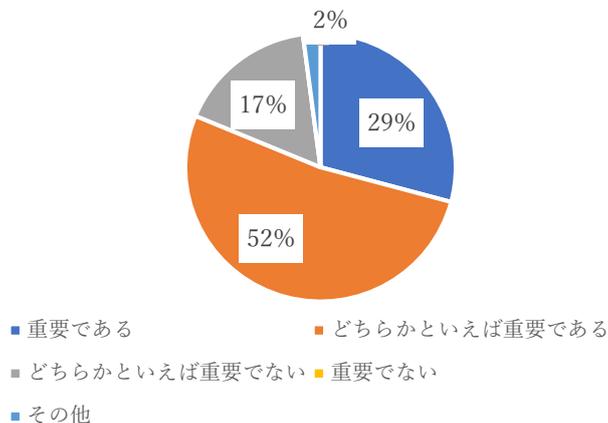
ていくためには社員のスキルアップが必要だから（57%）」「急速な技術革新に対応していくため社員の新しいスキル修得が必要だから（36%）」の割合が高い。

一方で、従業員がリカレント教育に取り組む理由をみていくと、「新しいスキルを習得したいから（46%）」、「すでに修得しているスキルをさらに高めたいから（27%）」の割合が高い。

先述した県内労働生産人口の減少に伴う労働力の確保や、医療等の発達に伴う長寿化、産業構造の変化やデジタル技術の急速な進展を背景に、自社の人財をいかに再教育して環境変化に適応していくかを企業は重要視している。個々の従業員にとっては雇用の流動化や働き方の多様化といった環境変化を身近に感じるなか、自身のキャリアを安定・成長させるために学び直すことに関心が高まっているものと推察される。

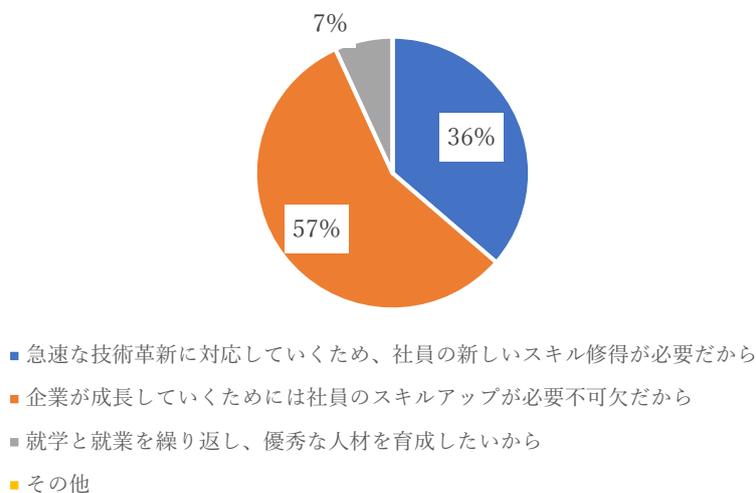
【図表⑪】

リカレント教育の重要性（経営者） n=48



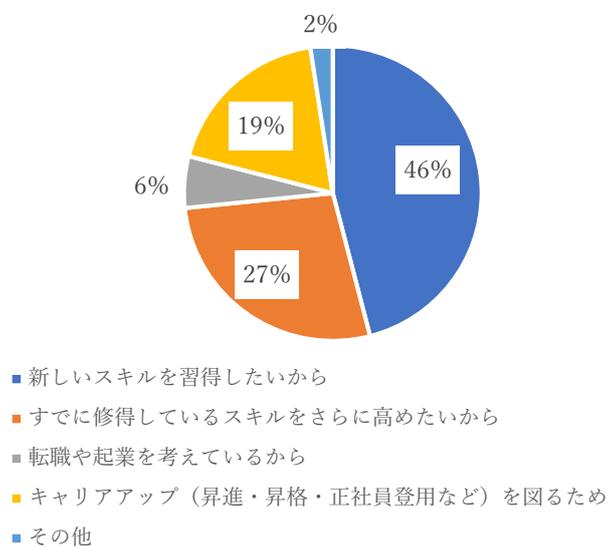
【図表⑫】

リカレント教育に取り組む理由（経営者） n=44



【図表⑬】

リカレント教育に取り組む理由（従業員） n=124



【図表⑪⑫⑬令和5年徳島県政策創造部「リカレント教育推進のためのニーズ調査報告書」より抜粋】

## 5. 今後に向けた課題

県内若年人口の減少は、高等教育機関・企業・自治体にとって喫緊の課題であるが、その背景には無数の問題が存在し複雑に関係している。第1期中長期計画の各取組の効果や反省も踏まえた上で、あらゆる分野において産学官の互いのニーズやシーズを共有しながら、大きく以下の課題解決に取り組んでいく必要がある。

- 県内中学校・高等学校からの進学者と県外（国外含む）からの進学者数の増加
- 多様で安定した雇用を生み出す地域産業の維持・活性化
- 地域課題解決活動の共同実施
- 人生100年時代、変化の激しい時代に適応できる人材の育成

## 6. 第2期計画策定にあたっての方向性

とくしま産学官連携プラットフォーム参画機関を取り巻く現状と課題、第1期中長期計画(2019-2023)の成果、反省等も踏まえ、ビジョンや基本目標は概ね踏襲しつつ、さらに効率的かつ効果的な取り組みを推進すべく以下の変更を行う。

### 第2期計画策定にあたっての変更点

#### ①取組項目の見直し

第1期中長期計画では、取組内容が多岐にわたり、従来の産学官連携の枠に捉われない多様な取組が生まれた一方で、効果の出にくい取組においても総花的に時間や資源が消費される部分もあった。

第2期中長期計画では、重要性、実現可能性、期待される効果等の観点から、継続して取り組む必要があると考えられる項目は維持・一部変更とし、環境の変化から新たに取り組む必要があると考えられる項目は新たに追加、総合的な観点から達成が困難、期待される効果が低いと判断された項目は削除する。

#### ②会議体の運用について

現在、取組項目を企画・実行する3つのワーキンググループ（以下「WG」とする）と、その進捗を管理する中長期計画委員会、中長期計画の進捗を評価・検証する評価検証部会、評価結果を審議し、改善や見直しを行う運営協議会で構成されている。

このうち、3つのWGにおいて、開催するリーダー校やWGを複数担当する参画機関担当者の負担が増大している。

連携組織体の安定的な運営体制と各WGの取組項目を効率的かつ効果的に推進していくために、取組項目を絞った上で、WGの同時開催も可能とすることにより、会議

体の開催・実施の効率的な運営を図る。

また何らかの事情で特定の取組項目に参画出来ない項目がある場合は、WGのもとに実施主体のみで構成された組織を設けることで会議体の協議から施策実行までを柔軟かつ効率的に行う。

### ③実施体制の変更

第2期中長期計画の企画及び実施面において、より強力に取組を推進していくために、各構成機関の強みや特色を活かしたWGの編成を行う。

### ④目標数値の変更

第1期中長期計画は各取組項目に挑戦的な目標を設定したため、目標達成に固執するあまり、取組の内容に対する十分な議論や、各取組目標の先にある将来的な展望に対する議論が疎かになる場面もみられた。

第2期中長期計画では第1期の反省も踏まえ、着実に進められる目標設定を行い、計画期間中に達成した場合には、あらためて取組項目も含めて目標を再設定する。

## 7. 基本目標とビジョン

県内高等教育機関の現状と課題を踏まえ、本プラットフォームでは、魅力と活気ある地域社会の創出を目指すため、以下のビジョンと3つの基本目標を掲げ取組を推進する。

### <ビジョン>

“確固たる知的拠点を形成し、多様で質の高い教育を提供するとともに、産学官が連携して地域社会の発展に貢献する”

#### 基本目標① 若い世代の県内定着に向けた学生の確保と産学官連携による県内就職の促進

各高等教育機関の特色化や魅力化、積極的な情報発信等による県内高校からの自県進学率の向上、県外の高校から県内高等教育機関への入学者の増加、産業界との連携による県内就職を見据えた外国人留学生の積極的な受入れ等の様々な施策を通じて、県内高等教育機関入学者数の確保を図る。また、県内高等教育機関新卒者の県内就職を促進する、「コンソーシアムとくしま」の目標を継続し、地域志向型科目の充実や産学官が連携した県内企業の魅力発信、インターンシップの実施などを通じ、県内定着率の向上を目指す。

#### 基本目標② 地域課題解決への貢献と災害リスクマネジメントの強化

県内の高等教育機関と産業界や自治体が相互に連携し、実践的な教育の創出や地域の課題解決、活性化に積極的に取り組む。

また、南海トラフ巨大地震の発生確率が高まる中、学生の災害への危機感を高める取り組みからボランティア体制の整備等、災害に備える人材育成を進めるとともに、自治体とも連携して災害リスクマネジメントの強化を図る。

#### 基本目標③ 次代を担う人材の育成と多様な学び直しの機会の創出

地域の持続的発展のため、大学等高等教育機関には、次世代の地域のリーダーとなる人材の育成、輩出が期待されていることから、高等教育機関各々の特色化を図るとともに、その連携を強化し、それぞれの資源や機能を最大限有効活用して、地域課題解決を担う人材や産業界が求める専門的・技術的人材の育成に取り組んでいく。

また、人生100年時代を迎え、すべての世代に活躍の場があり、すべての人が元気に活躍し続けられる社会を作ることが期待されており、地（知）の拠点である高等教育機関として、生涯を通じて切れ目なく、質の高い教育を用意し、いつでも有用な知識やスキル、必要な能力を身につけられる学び直しの場を提供する。

## 8. 基本目標と事業内容

基本目標①	若い世代の県内定着に向けた学生の確保と産学官連携による県内就職の促進	
KPI		
県内高等教育機関への入学者数	2023年 3,128人 → 2028年 3,100人	
県内高等教育機関卒業者の県内就職率	2023年 43% → 2028年 45%	
No.	取組内容	期間中 取組目標 (5ヵ年総計)
1	<p>県内高等教育機関への進学促進</p> <p>(取組①) 県内高校生やその保護者を対象に高等教育機関の魅力共同発信</p> <p>(取組②) 県外を対象とした学生募集の共同実施</p> <p>(取組③) 県内高校生への進学情報(オープンキャンパス情報)の一元発信</p> <p>(取組④) 県内大学への進学状況を分析し高大接続対策へ活用</p> <p>(取組⑤) 高校生への共同模擬講義・実習の実施</p>	<p>5件</p> <p>2回</p> <p>5回</p> <p>5回</p> <p>5回</p>
2	<p>産学官連携による県内定着促進</p> <p>(取組①) 産学官が共同企画したインターンシップの実施</p> <p>(取組②) 県内の魅力を発信する参加校共同授業の実施</p> <p>(取組③) 地域志向型科目の共同授業化の推進</p> <p>(取組④) 県内産業の魅力などを伝える、就職説明会や交流会の開催</p>	<p>5回</p> <p>5回</p> <p>1科目</p> <p>5件</p>
3	<p>留学生の確保と県内定着</p> <p>(取組①) 留学生が地域の魅力を発見する共同事業の実施</p> <p>(取組②) 留学生向けの就職セミナーや企業との交流会の開催</p> <p>(取組③) 留学生と日本人学生の交流を促す交流事業の実施</p>	<p>3回</p> <p>3回</p> <p>3回</p>

基本目標②	地域課題解決への貢献と災害リスクマネジメントの強化	
KPI		
県内高等教育機関と県との連携事業数	2023年 139件 → 2028年 140件	
フィールドワーク参加学生数	2023年 2,300人 → 2028年 2,500人	
No.	取組内容	期間中 取組目標 (5ヵ年総計)
1	<p>地域課題解決への貢献</p> <p>(取組①) 市町村との共同研究・共同事業の推進</p> <p>(取組②) 県との連携事業の推進</p> <p>(取組③) 共同での地域の課題解決フィールドワークの実施</p> <p>(取組④) 地域課題解決の取組に必要な専門教員の共同人材バンク設置</p> <p>(取組⑤) とくしまボランティアパスポート事業の拡充</p>	<p>40件 (新規10件、継続30件)</p> <p>140件 (新規10件、継続130件)</p> <p>10件 推進</p> <p>6 高等教育機関</p>
2	<p>災害リスクマネジメントの強化</p> <p>(取組①) 学生が共同でボランティア活動等を円滑に行える体制の整備(防災士の養成事業含む)</p> <p>(取組②) 産学官が連携した共同での防災関連事業の実施</p> <p>(取組③) 自治体が開催する防災訓練への参画</p>	<p>整備</p> <p>3回</p> <p>5回</p>

基本目標③	次代を担う人材の育成と多様な学び直しの創出	
KPI		
高等教育機関と企業との共同研究・共同事業数	2023年 111件 →2028年 120件	
リカレント教育プログラム数	2023年 48件 →2028年 50件	
No.	取組内容	期間中 取組目標 (5ヵ年総計)
1	<p>高等教育機関の教育内容の充実のための交流拡大</p> <p>(取組①) 共同のFD・SDの開催</p> <p>(取組②) プラットフォーム事業に関連する共同IRの実施</p> <p>(取組③) 施設・設備・備品等の共同利用の推進</p> <p>(取組④) 地域課題解決を目的とした共同研究の推進</p>	<p>5回</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>5件</p>
2	<p>地域を支える人材の育成</p> <p>(取組①) 小・中・高校生向けの共同事業、共同授業の実施</p> <p>(取組②) 共同での地域課題解決フィールドワークの実施 (再掲)</p> <p>(取組③) 地域人材育成をテーマとしたFD・SDの開催</p> <p>(取組④)アントレプレナーシップを育む事業の実施</p>	<p>130回 (新規10件、継続120件)</p> <p>10件</p> <p>5回</p> <p>3回</p>
3	<p>多様な主体のニーズに対応した教育機会の提供</p> <p>(取組①) 県民ニーズに対応した共同公開講座の充実</p> <p>(取組②) 産業界のニーズに対応したリカレント・リスキリング事業の提供</p> <p>(取組③) リカレント教育情報の一元的発信</p>	<p>2プログラム</p> <p>3プログラム</p> <p>推進</p>

## 9. 事業の実施状況に係る点検・評価・改善について

本計画に位置付けられた施策を着実に実行するため、計画期間における具体的な工程表（ロードマップ）を、中長期計画委員会で審議し、決定する。また、計画の円滑な推進を確保するため、毎年度4月末日までに前年度の事業の進捗状況及び今後の対応方針等について取りまとめを行い、評価・検証部会において点検・評価を実施する。

上記の事業の進捗状況等に係る評価・検証部会での点検・評価の結果について、8月末までに開催する「とくしま産学官連携プラットフォーム運営協議会」に報告し、審議を通して事業の改善や見直しを行う。

## 10. 実施体制

